

令和6年度学校評価（教職員による自己評価 および 関係者評価）

令和 7 年 4 月 8 日
静岡聖光学院中学校・高等学校

建学の精神	カトリック的世界観にのっとり、人類普遍の価値を尊重する人格の形成、あわせて高尚かつ有能なる社会の成員を育成する。
重 点 目 標	① 生徒が地の塩・世の光の担い手となるために、積極的で自覚的な学院生活を送るよう呼びかける。 ② 6 力年継続した進路指導・学習指導の体制を充実させる。 ③ 学校での学習活動(良質の授業および補習など)に加え、家庭学習の指導や保護者面談を通じて生徒・保護者の満足度を高める。

評価基準(自己評価)	A：十分に達成できた	B：おおむね達成できた	C：あまり達成できなかった	D：全く達成できなかった
評価基準(学校関係者評価)	A：十分に評価できる	B：おおむね評価できる	C：少し物足りない	D：評価できない

◆ 自 己 評 価				◆ 学 校 関 係 者 評 価	
評価項目	具体的取組	現状(成果)と来年度への課題	評価	評価	意見・提言等
教 務	【重点目標】生徒の学習活動全般の円滑な運営、授業の質の向上、生徒の学力向上、時代に即した教育活動を展開する。			B	生徒が主体的に自身の課題に取り組んでいるかが大切に感じる。 教務の基盤となる教職員の労働環境の整備に留意して欲しい。 重点目標が抽象的で、どこに着目してどのような効果を評価しようとしたのか分からない。
	観点別評価についての検証を行う。	三観点を踏まえた授業 定期試験の作問	三観点を意識した定期試験の作問。観点別の評価方法について教科を中心に検討を重ねている。 生徒にとってプラスになることを大前提として改善を検討していく。		
ア カ デ ミ ア 進 路 指 導	【重点目標】一人一人が自分の将来をイメージし、学びたい学問を見つけ、希望する学府への進学を目指すよう、意欲を引き出す。			A	横浜聖光の先生のお力を拝借することは大いに賛同し期待している。 DEI(多様性・公平性・包括性)について学ぶ機会があってもよい。 この2年間でビジネス現場では急速にAIの活用が進んだ。受験の対策と同時にAIを使った別レベルでも学習が必要と思われる。
	多様な学問の研究領域情報を提示し、将来的に自分が関わり、ライフワークの基盤となる学問を見つける機会を提供するとともに、大学へ進学することの意味を考える機会をつくる。	オープンキャンパスの案内 学部学科・大学説明会の実施 その他各業者の進路雑誌や大学情報の提供	大学入学後・卒業後を見据え、自立した学習者であり続けるため、職業観や学習観の醸成を図る。epassを仲介し、大学から系統別および大学の特徴を説明してもらう機会を設けた。6・7月は、目的意識を持って、夏季に行われるオープンキャンパスへの参加を促せるように、系統別+大学説明を1回とする説明会を行った。また、10・11月には、自分の興味を基に、多くの系統を扱った説明会を実施した。本年度も中学生や保護者からの参加希望があったことから、このような機会を継続して提示する必要がある。		

外部模試や講習を提供し、積極的な参加を促すとともに、定期試験や外部模試における振り返りをさせることで、最終段階である大学入試に向けた学力と精神面における自信の獲得を目指す。	定期試験や外部模試に向けての事前指導とリフレクションの徹底 高3生への大学別外部模試の推奨	ASGセンターと定期試験対策と振り返りの実践を連携し、外部模試の結果をもとに個別の学習面談を充実させた。 高1では4月にスタディサポートを実施した。オンライン上で模試を受け、即時結果が返却されたため、素早く指導に反映することができた。 高3で難関大学を志望する生徒には個別大学模試を斡旋し、学習戦略の意識を高めることができた。外部模試の日程を統一日より遅くすることで、実施後の復習に早急に取り組めるようにするなど考えられる。		またpythonなどプログラミング言語にも積極的に学習機会を与えてもらいたい。
入試で様々な進路選択ができるよう、多種多様な受験方式に対応するための環境を整備する。	一般選抜の受験方式の情報提供 早期に総合型選抜、学校推薦型選抜の情報提供	総合型選抜で受験する生徒に、いつまでにどれだけの準備が必要なのか、具体的なスケジュールを提供した。特に高3の結果については、部署問わず、学年の先生方のご尽力の賜物である。昨年度から推薦規定が一部変更となったが、生徒一人一人について、どの受験方式がより結果に繋がるのかの作戦をたて、夏季休暇を待つことなく生徒面談を実施している。特に、一般受験を考え、共通テストや2次試験を利用する生徒については、横浜聖光学院の小泉教諭に面談を依頼し、生徒の学習動機や学習計画のサポートをしていただいた。		大学から説明をしてもらう機会を設けているが、大学進学が前提となっており、大学進学以外の進路を想定していない。
外部との連携を強化する。	ASGセンターや個別指導に対し定期的な情報共有 横浜聖光学院教諭陣へ講習の依頼 スタディウム・カンザキメソッドとの実施報告と情報共有	横浜聖光学院と連携し、高2・高1・中3で難関大対策講座を実施した。数学は小泉教諭、英語は荻江教諭に担当していただいた。諸先生については、2025年度夏期講習にも参加していただく予定である。また、高3放課後講習（一般入試対策講座）にも永江教諭等に携わっていただき、横浜聖光学院との連携を強化している。 加えて、高3では志望理由書作成のため、神崎講師の指導を受けている生徒もいる。 他方、本校教諭の立ち位置をよく吟味し、どの団体とどのように関わるかを集約・議論する必要がある。現に、学年主任が団体と連絡をとり、進路説明資料を取り寄せ説明会を実施するなどの実態があることが継続した課題である。また、放課後補修等の是非なども議論しなければならない。		学校で行った大学説明会ではもっと難関大学を見たい。また、幅広い学部を見たいという意見もあった。
自己と向き合い、他者や社会との関わり方について、経験を通じて学ぶ。また、そのスキルを体験的かつ体系的に学ぶ機会を設ける。	中学1年生LGキャンプ 中学2年生LGキャンプ 中学1年生「総合」 中学2年生「ゼミ」 中学3年生「ゼミ」 高校1年生「総合」	中1のLGキャンプの質をより高くすることが昨年度の課題であった。参加教員からは時間不足や体調不良者が多く出たことが報告されたが、内容については概ね満足だという回答があった。LGキャンプでは、他者と関わりながら学ぶ機会をつくることができた。中1・中2・中3の総合とゼミについては、昨年度に引き続き聖光祭で発表会の機会があった。保護者や聖光祭参加者に生徒の成長を見てもらう機会であると考え。また、高1の総合は個人研究を各々深める時間として使うことができた。		定期試験前など、ASGセンターの使用できる場所を増やして欲しい。
				総合型選抜に向けて、準備不足にならないようお互いの情報共有がもっと必要である。
				聖光生の成長はLGキャンプやゼミなどの教育でもっと特色を出して欲しい。

自己実現の方向性を考える経験を通して自らの抱く使命感とその領域性を広くまたは深く模索する機会を設ける。	高校1年生キャリアキャンプ 高校1年生個人研究 Inspire Highの利用	キャリアキャンプでは、生徒がメタ的視点で自分自身の経験や価値観を掘り下げて興味関心を探り、個人研究に接続する意図で行なった。株式会社ミエタに外注して連携してプログラムをつくったが、生徒が自分の価値観や経験を掘り下げる自由記述の形式のハードル高かった。来年度は5月中旬にキャンプを実施する予定であるが、生徒の自己理解をもってキャンプに臨んでほしいことから、キャンプに先行して4月から「自分の歩みを振り返り、自分は何者であるか」等の問いかけを中心としたワークを「総合」内で行う。また、個人研究については、キャンプや中学時代に得た経験を踏まえ、今年は「個人活動」に加え「グループ活動」を認め、さらに、最終的な成果物として「論文形式」の代替として、例えば「コンテストで発表」等を認めた。そのうえで、7月19日に現状の報告として構想発表会を行った。昨年度の課題であった「計画性」については、教員が取り組むべきことを都度提示し、期間を区切って指し示すことで、夏季休暇中の取り組み予定や年間構想を踏まえた構想発表会をであった。1年間のまとめとして、2月13日に「学びの発表会」を実施した。保護者を招き、自らの研究の成果と、そこから得た学びを伝えるなかで、研究活動を振り返り、次の課題を考える機会となった。 Inspire Highは中学1・2・3学年で導入し、自分の行動変容に結びつけるための一助としている。今年から新機能も導入され、昨年度保護者から好評だった年度末の発表会を中3で実施した。一方、導入から数年経ち、来年度も継続するかどうかを議論する必要がある。			
文化的雰囲気醸成と、生徒の個性・研究成果をアウトプットし、フィードバックを得る機会を設ける。	学内誌「静聖」の発刊 静聖委員会の組織と実施 プロジェクト（生徒主導の課外活動）の実施（自然科学賞候補者発表会の開催） （自然科学賞の受賞者の表彰） →理科が主導で実施している	静聖刊行の目的は「文化的雰囲気醸成と、生徒の個性・研究成果をアウトプット」であり、その達成のため、高2が中心となり既に委員会活動が活発に行われた。昨年度は夏期休暇明けから始動していたが、既に特集テーマに関する記事や体育祭などのイベントについての記事が集まり、文章を確認する作業に入ることができている。 また、校外と連携したプロジェクトも複数展開されており、外部から榊原講師引率のもと、水中ドローンを使用して消失藻場の再生を目指すという昨年度から継続したプロジェクトに関わっている。 静聖とプロジェクトについて、今後も同様の目的と考え方、アプローチで継続予定である。 加えて、本年度からピエール・ロバート賞選考を本部署が担っている。審議の結果、本年度は該当なしとした。			

	生徒のコンピテンシーを育てるための評価のあり方と、その方法論を教員が学び、実践し、教員間で研鑽する機会を設ける。	教員研修の実施 (7月～12月 3部構成で実施)	「学びに天井をつくらない」「生き方を創造する」というビジョンを達成するために、昨年度から「学びに天井をつくらないための授業づくり」と、「生き方を創造するための指針（ルーブリック）の作成と運用」を主な観点に置いている。今年度は外部から榊原講師をお招きし、評価に関してなど、定期的な研修会を実施した。筆記試験等により正誤で測定できる知識・スキル以外のコンピテンシーを育て、評価するための仕組みを学ぶ予定である。具体的には、ルーブリックの考え方・作成の仕方・運用の方法を学ぶ機会となった。これは、昨年度の課題であった「研修内容の実践とフィードバック」を受け計画されたものである。			
生徒指導	【重点目標】多様性を認識し、自らの言動に責任を持ち、決断できる人材育成			B	B	互いの個性を差別することなく、認め合える関係がこうしくされることを望む。 転校やフリースクールへの転学も許容できるような時代になったと思う。 生徒のどのような言動に関し、その責任について指導したのか分らない。 いじめゼロは無理だと思うが何かあった時に両方の保護者で話し合える場を学校や寮でつくって欲しい。
	日々の生活習慣の確立	校内美化活動 HR、授業前環境整備 礼節ある振る舞いの指導	1年間の生徒の成長を感じられる成果があった。ただし、環境整備、時間の管理など甘さが目立つ観点もある。何故、生徒の変容が必要なのか、生徒が自己変容できるように、目的を認識できるような指導を継続したい。			
	校外での振る舞いについての指導 ・交通安全 ・登下校でのマナー教育	交通安全教室の実施 中学1年生を対象にした自転車通学許可テストの実施 自転車での登下校指導 校外巡視、公共交通機関での登下校指導実施	交通安全教室を通して、命の大切さを訴える指導はできたと感じる。校外巡視を実施し、生徒の現状を把握した上で必要な指導を計画できた。 自転車の事故が5件あり、例年より多かった。登下校中、プライベートな時間で事故にあわないように、自分が交通ルールを守るだけではなく、危険を予測した上での移動を心掛けるよう折を見て指導が必要である。			
	非行防止・モラル教育の実施 ・いじめ防止教育 ・薬物使用防止 ・飲酒喫煙防止 ・ネットモラル向上教育	教員研修 他部署と連携した各学年に応じたセミナー実施 きめ細やかな生徒指導早期対応	前期に教員が全員参加し、いじめ対策研修を行い、いじめの定義、生徒への寄り添い方、教育的指導の在り方についてケーススタディを行った。 保健部発信の元、薬物対策講座、飲酒喫煙防止講座を行い、生徒の保健衛生の知識を高めることができた。			
	課題発見、課題解決能力の育成 ・部活動等の特別活動の充実	部活動、委員会活動、個人活動の充実。学校での生徒の困り感を生徒が改善していく姿勢を浸透させる。	生徒がやりたいことが伸び伸びとできるよう、諸活動の承認、環境整備を積極的に行った。委員会や部活動については一定の満足度があるように感じられる。 その一方でより発展的にできる活動があるので、引き続き生徒が自らの意志で活動を充実できる環境を整えたい。			

宗教教育	【重点目標】カトリックミッション校に相応しい教育活動のさらなる充実を推し進める。			A	A	カトリックミッション校としての取り組みが大きい一年となった。生徒達が見学の精神の土台となっているキリスト教的価値観に触れる機会が多く提供されており、人格形成の観点からも郊外での多様な体験プログラムは実り多かった。 カトリックミッション校としてカトリック横浜司教区との連携も十全になされており、また地域のカトリック教会との交流を通して、生徒達が多様な背景を持つ同学年との出会いを体験できた。 聖堂が解放されていることで、沈思黙考のための時と場が誰にでも提供されている。 クリスマス・イルミネーション点灯式には地域の方も多数参加して下さり、良い交流の場となっている。 キリスト教の基礎教養は海外とのビジネスでは決定的に重要である。中高時代にキリスト教リテラシーを身につければ人生の選択肢が増えることを伝えて欲しい。
	カトリック精神に則り、横浜教区と連携しながら、生徒の心の成長を目指す ミッション校ならではの心のケア	祈りの時間(月1回) ミサ (月例 全校 中高卒業 卒業生二十歳の祝い) みことばの集い (聖書授与) 生徒・教員・保護者向けの宗教的企画・活動 (聖書研究会、講話黙想会、交流会など) チャプレンの異動に伴う今後の課題へ対応 旧修道院の活用と修道会およびカトリック研究会の資料の整理 聖堂オラトワールの開放 生徒指導部・教育相談部との連携をめざす	祈りの時間は月1回、年間11回実施した。聖書の言葉、教職員・生徒からのメッセージ、聖トマス・モアの紹介、カトリック暦の話、献血(他者のために)の案内など。朝のひととき静かに耳を傾ける時間となっている。来年度も続ける。 ミサ、みことばの集いも予定通り実施。月例ミサは参加生徒の増加を目指したい。声掛けと、聖書研究会の生徒を中心に役割を分担して参加を促すことも考えている。とりわけ高校(51期生)の卒業ミサは皆で心を合わせ、素晴らしいものとなった。来年度も同じく実施。夏期休暇前の全校ミサはトマス・モアと帰天後20年の初代校長ピエール・ロバートのふたりを記念する。 生徒の活動として、週1回の聖書研究会は中学生の各学年で昼休みに活動。 夏休みには『身延山』『望洋庵(京都)』で祈りと黙想の時間を体験した。また、静清地区教会学校リーダー会主催のサマーキャンプが本校のセミナーハウス(旧修道院)で行われ、本校生徒も参加し地区の教会の小・中学生と交流した。 2025年夏は広島終戦80周年記念式典と望洋庵の黙想会研修を広島ノートルダム清心中・高等学校と共同で計画中である。 10月、広島教区の大西勇史神父を招いた。コロナ禍、中3・高2にオンラインで講話をしていただいた。今回は中3全体と中2の一部に講話、高3の国語授業にご参加、聖書研究会のメンバー・寮生・有志職員と交流した。 12月、梅村昌弘司教より職員に向けて「召命/使命」のご講和をいただいた。 来年度は、外部講師による講演か校内研修を考えている。 保護者向けの企画は実現できなかった。キリスト教講座、オラトワールでの保護者と職員の交流を実現したい。 3年前より本校のチャプレン・上杉優太神父(35期生)が、今年度スペイン留学の異動となった。オンラインでのご指導の継続を望んだが、困難な様子であった。今年度、八幡協会主任司祭として派遣された古川勉神父が、来年度より本校チャプレンとして任命された。上杉師の帰国までとお願いしている。 夏休みサマーキャンプ(上記)で地域の教会の子どもたちの活動の場所となった。本校の生徒も参加。神父様・シスター・神学生・教会学校リーダーたちと共に過ごした。次年度も同じキャ			

	宗教活動委員会の充実 生徒活動としてのボランティア 海外兄弟校との連携	* ボランティア活動についての情報発信と実践(社協との協力) * フィリピン募金について 待降節の準備、発表、地域交流、合唱隊 キリスト教教育修士会の兄弟姉妹校との交流 生徒指導部・教育相談部との連携をめざす	ンプが予定されている。また日頃の聖書研究会や希望者を募っての企画の活動の場所としても使用を続けたい。 10月に広島教区の大西神父を招いた際、宿泊の予定を立てていたが、タイCRPAOスクールの御一行(女子含む)とバッチング、今回は他所に宿泊した。 資料の整理は捗っていない。来年度は日時を決めて取り組む。 聖堂は、学校活動のある日は毎日開放している。生徒・職員とも思い思いに立ち寄っては、静かに思索、或いは歌やピアノ演奏で時を過ごす場となっている。 サマー・ショート・ボランティアの情報を発信し、受験を控えた高校3年生が3名応募、うち2名がお年寄りの介護施設でのお手伝いを体験した。 今年度は社会福祉協議会との協力事業は実現が出来なかった。各学年会と日程や内容などを相談しながら実施したい。 フィリピン募金は、今年度送付先バンダンベイ・インスティテュートとコンタクトを取ることができない状態が続いている。かつては研修旅行先として交流があったが、今は他国への研修旅行先が充実している。継続か打ち切りか、決めた方がよい。 9月タイチェンライの大洪水後に募金を行い、CRPAOスクールに送った。 今年度も年末赤い羽根共同募金を行った。 宗教活動委員を中心に、クリスマスの仕度、特にイルミネーションの準備は継続している。待降節の始まりに合わせた点灯式も地域に定着しつつあり、今回も小さなお子さんを連れたいご家族や近隣の方々、保護者が集まった。点灯前のミニコンサートでは吹奏楽部のアンサンブルとチェロ・声楽(高3の御母堂)・ピアノの楽曲も披露。カウントダウンも含め和やかな雰囲気の会となった。合唱隊は、先ずは職員3人から始めた。生徒も含め歌声の輪を広めたい。 国際交流部に相談している。上述したように様々な研修先が増えている今、増やすことは現実的ではない。例えば再来年度検討中のサミットでお声掛けすることはできないだろうか。オンラインやメール、手紙などの交流を含め、長期続けられるかたちを検討している。			
--	---	---	--	--	--	--

国際	【重点目標】			A	B	特にインドネシアには注力して欲しい。 タイからの留学生にはとてもいろいろなことを教えてもらった。 国際サミットは企業からご寄付をいただくなど工夫が必要である。
	長期留学生受け入れ・指導 (留学斡旋団体を介さずに自前で)	タイからの留学生を2名受け入れ・高校1年	昨年度に引き続き、留学生を斡旋する団体を介さずに、直に長期留学生を受け入れることができた。今年度は閉寮期間が非常に多く、2名のためのホストファミリー確保に苦心した。次年度はワチラウッドカレッジからの交換留学生がいないため、関係性を絶やさないために積極的にこちらから働きかけたい。			
	「アジア架け橋生」の受け入れ継続	インドネシアとスリランカから1名ずつ受け入れ・高校2年	3年連続で優秀な「アジア架け橋生」を2名受け入れることができた。次年度は2名以上を目標に確保したい。			
	海外校との交流継続・拡大	MOU締結校の増加 (ニュージーランド・ブルネイ) アジア以外の地域との提携校を増やす (イギリスアメリカ) ラグビー交流の発展 日本語交流プログラムの企画 (スイス・フランス・スウェーデン)	5月にニュージーランドのSacred Heart College Auckland と新たにMOUを締結することができた。アジア以外の提携校に関しては、ビジネス目的でアプローチをかけてくる相手を慎重に見極めて交流を増やしていきたい。 昨年度に引き続きラグビーの国際大会(マレーシア)に参加し、部員によるカンボジア研修も実施した。次年度はオーストラリアやニュージーランドの学校との交流試合を企画したい。 スイスとフランスの学校を相手に月に一度ずつ「やさし日本語オンライン交流会」を生徒主体で実施することができた。			
	Experience Shizuoka Tourの企画・運営	ゆかりのある海外校との教育パートナーシップの維持・発展 日本語学習者を招き次年度以降の長期留学生受け入れにつなげる 地元・静岡の魅力を世界に発信して地域振興に貢献する 「国際交流委員」の生徒主体で、校内で完結する持続可能なイベントの企画・運営	Vajiravudh College (タイ)、The Malay College Kuala Kangsar (マレーシア)、Liceo Classico Ordinamentale Marco Foscarini (イタリア)、Liceo Classico Europeo Marco Foscarini (イタリア) から引率教諭4名と生徒13名を、7月の前期夏期講習期間中に受け入れることができた。2年後の第3回「国際未来共創サミット」開催に向けて、小規模ながら運営のノウハウを蓄積することができた。			

海外研修旅行・短期留学などの企画 (昨年度からの継続・発展)	・インドネシア研修 ・カンボジア研修 ・オーストラリア研修 ・アメリカ研修 ・イギリス研修 ・タイ研修 ・ブルネイ模擬国連 ・イタリア模擬国連	年間を通して、11個もの海外研修が企画され、127名もの生徒が参加をした。次年度はこの数を維持・増加していくよりも精選してより教育効果を高め、持続可能な体制にしていきたい。アメリカ研修とイギリス研修を1年おきに交互に実施するなどパイを奪い合わないように工夫をしたい。年度末の3月31日(日)に「オンライン海外研修プログラム説明会」を実施し(後日動画配信)年間のスケジュールをカタログ化して紹介をしたが、次年度の説明会では単年の共時的な観点に留まらず、6年間の通時的な流れをしっかりと提供し、各家庭が長期的な視点で計画的に海外研修に参加できるよう環境を整えたい。			
---	--	---	--	--	--